

或る経営者の自論

経営トップ講義
 @県立大
 「ビジネス経済の実践」要旨

②



「経営者にとって大事なのは感性だ」と語る湯川会長
 県立大佐世保校（山口隆行撮影）

佐世保工業会会長

湯川 栄一郎氏

私の会社は主に機械の金属部品を作っている。私は2代目の社長で、現在は息子が継いでいる。経営者にとって大事なのはフリーリング（感性や感じ方）だと思う。そして人間の感性は経験や環境が影響する。私の会社が66年続いたのは私の育ち方や環境と関係するのだから聞いてほしい。戦後間もなく父が勤めていた会社が倒産した。父は機械に詳しく金型を作れたので、

昭和26（1951）年に王冠を製造する会社を立ち上げた。夫婦2人の個人営業で王冠はサイダーやジュース、清酒のふたなどに使っていた。母親は子ども3人を抱え、無理がたたって私が小学3年のときに病気になる、高校3年のとき42歳で亡くなった。

家が貧乏だったため私は中学、高校とも春、夏、冬の休みは社員に交じって仕事を手伝った。大学卒業後は父の会社に入ったが、入社後5、6年でコカ・コーラとかペプシとかウイスキーなど外資系企業が入ってきた。九州で7社ぐらいあった王冠製造会社は

次第に姿を消した。今は九州で1社だけだ。酒屋の売り上げは毎年5%ダウンした。利益も出さずこのままではつぶれると考え、父と相談して事業転換を図った。プレス加工や金型など持っている技術を生かし、半導体の製造装置を作る工場に営業をかけた。しばらくすると取引できるようになった。毎年20〜10%売り上げが伸びている業界だ。これが現在も会社がり立っていることにながっている。

経営者は時代の流れをみなくはならない。就職する際は発展しそうな会社を選ぶことが大事だ。売れない物を作っても競争は激しい。利益は出さず給料も払えない。それを見極めるのも感性だ。市場を調べたり社会情勢を勉強したりして蓄積すれば判断できる。目標を持たないと大学の4年間はずぶに過ぎる。いい目標をつくり達成するためのスケジュールを考えてほしい。ITやIoT、AIなど第4次産業革命が始まっている。今まではものづくり産業が日本の経済を支えていた。これからは知識を集約することで人に喜びを与えられる時代になった。みなさんにはチャンスがある。

佐世保工業会は47社が加盟している。お薦めできる会社ばかりなのでホームページを見てほしい。大企業は仕事が一辺倒になり達成感は薄い。中小企業は10年も勤めれば経営や企画に携わることが出来る。実家に住むと経済的にも楽だ。ぜひ地元で就職してほしい。（西村伸明）

次回10月31日に掲載します

時流を見極め事業転換